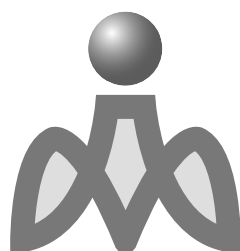


山 梨 県

商工会地区

中小企業景況調査報告書

〔平成21年4月～6月実績〕
〔平成21年7月～9月予測〕



未来に敏感、人が中心

山梨県商工会連合会

目 次

I 調 査 要 領	1
II 景 況	
1. 産業全体の景況概観	2
2. 製造業の動向	
(1) 景 況 概 観	3
(2) 主な項目でみる業況	3
3. 建設業の動向	
(1) 景 況 概 観	6
(2) 主な項目でみる業況	6
4. 小売業の動向	
(1) 景 況 概 観	9
(2) 主な項目でみる業況	9
5. サービス業の動向	
(1) 景 況 概 観	12
(2) 主な項目でみる業況	12

【I】 調 査 要 領

1. 調 査 対 象

- (1) 対 象 地 区 1 1 商工会
(2) 対 象 企 業 数 1 6 5 企業
(3) 回 答 企 業 数 1 6 5 企業

2. 調 査 対 象 期 間

- 第 4 四 半 期 平 成 21 年 4 月 ~ 6 月 期
調 査 時 点 平 成 21 年 6 月 1 日

3. 調 査 方 法

県下の調査対象企業を 1 1 商工会の経営指導員が訪問面接調査

4. 調 査 対 象 企 業 (モ ニ タ ー 企 業) の 商 工 会 別 、 業 種 内 訳

商工会名	製 造 業	建 設 業	小 売 業	サ ー ビ ス 業	計
都 留 市	3	3	5	4	1 5
韭 崎 市	3	3	4	5	1 5
南アルプス市	3	2	5	5	1 5
北 杜 市	4	2	5	4	1 5
笛 吹 市	3	2	4	6	1 5
上 野 原 市	3	3	4	5	1 5
甲 州 市	3	3	4	5	1 5
中 央 市	4	2	6	3	1 5
鰻 沢 町	4	2	6	3	1 5
身 延 町	4	2	5	4	1 5
河 口 湖	4	2	6	3	1 5
計	3 8	26	5 4	4 7	1 6 5

5. そ の 他

本報告書のD I 値とは、ディフュージョン・インデックス（景気動向指数）の略で、各調査項目について前年同期と比較して、増加（上昇、好転、長期化等）とする企業割合と、逆に減少（低下、悪化、短期化等）とする企業割合の差を示すものである。

【Ⅱ】 景 況

1. 産業全体の景況概観

昨秋より誠に厳しい経済状況が続く中、国では21年度に入り早々に補正予算を組み、これ以上の景気の底割れを防ぐよう実施に移されている。5月における本県の雇用統計を見てみると、有効求人倍率が0.39倍で過去最低を更新した。製造業は特に深刻で、雇用調整助成金の活用で何とか雇用を維持している様子である。産業全体では、515企業が雇用調整助成金を申請している状況にある。

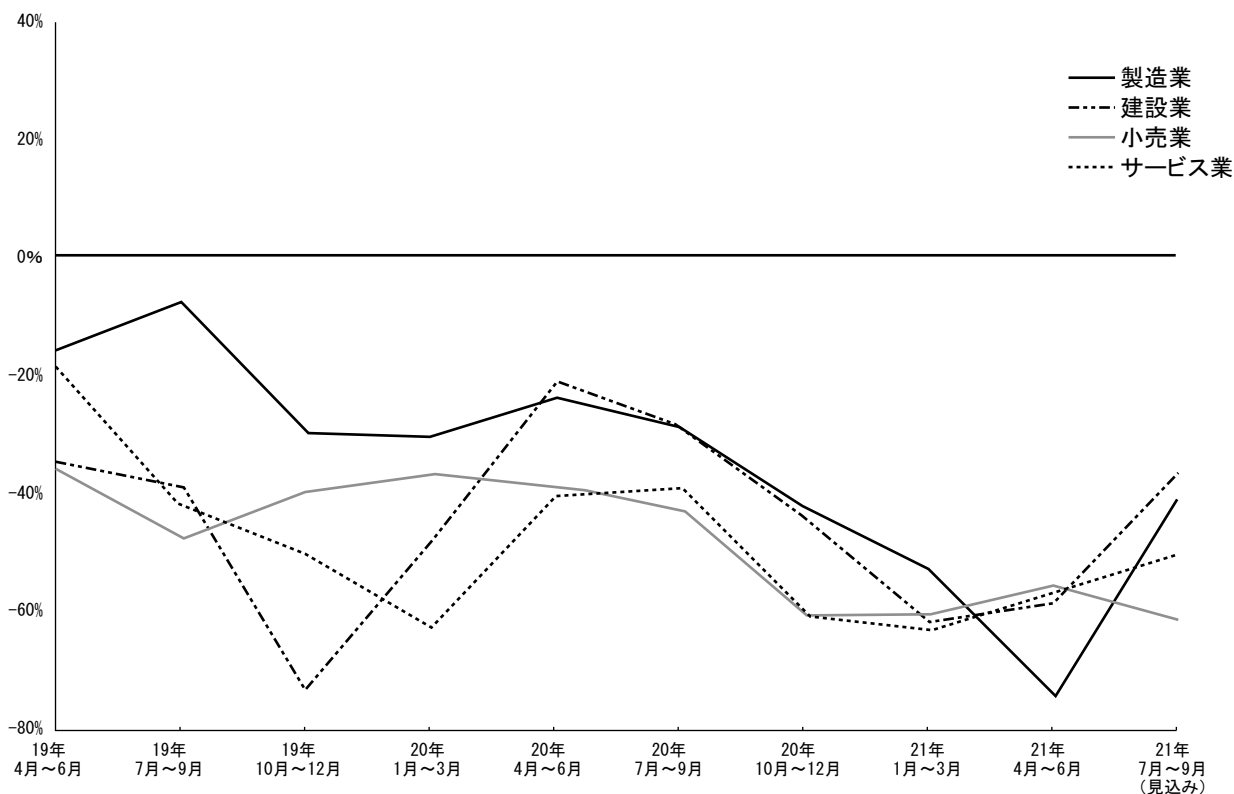
さて、本調査結果における4業種の売上額の状況は下図のとおりである。本県製造業、建設業、小売業、サービス業4業種の過去2年間の売上額(完成工事額)D Iの推移を示したものである。ここでいう売上額D Iとは、今期の売上額状況を前年同期と比較したものである。

まず、製造業は、前期マイナス52.6からマイナス73.6となり一段と厳しい。建設業の完成工事額D Iは、前期マイナス61.5からいくらか改善しマイナス57.8となった。小売業も同様に、前期D Iがマイナス60.0からマイナス55.5へ、サービス業も前期マイナス63.0からマイナス56.6へ改善した。

次に、4業種の来期の見通し売上額D Iについては、製造業は一部受注の持ち直しが見られる中で、33.0ポイントと大きく改善見込みのマイナス40.6である。建設業もマイナス36.0で25.6ポイントの改善傾向である。小売業は唯一悪化の見通しで、マイナス61.1である。サービス業は 6.7ポイント改善の見通しのマイナス49.9である。

山梨県 全産業 DI

売上(完成工事)額の推移 ー前年同期比ー

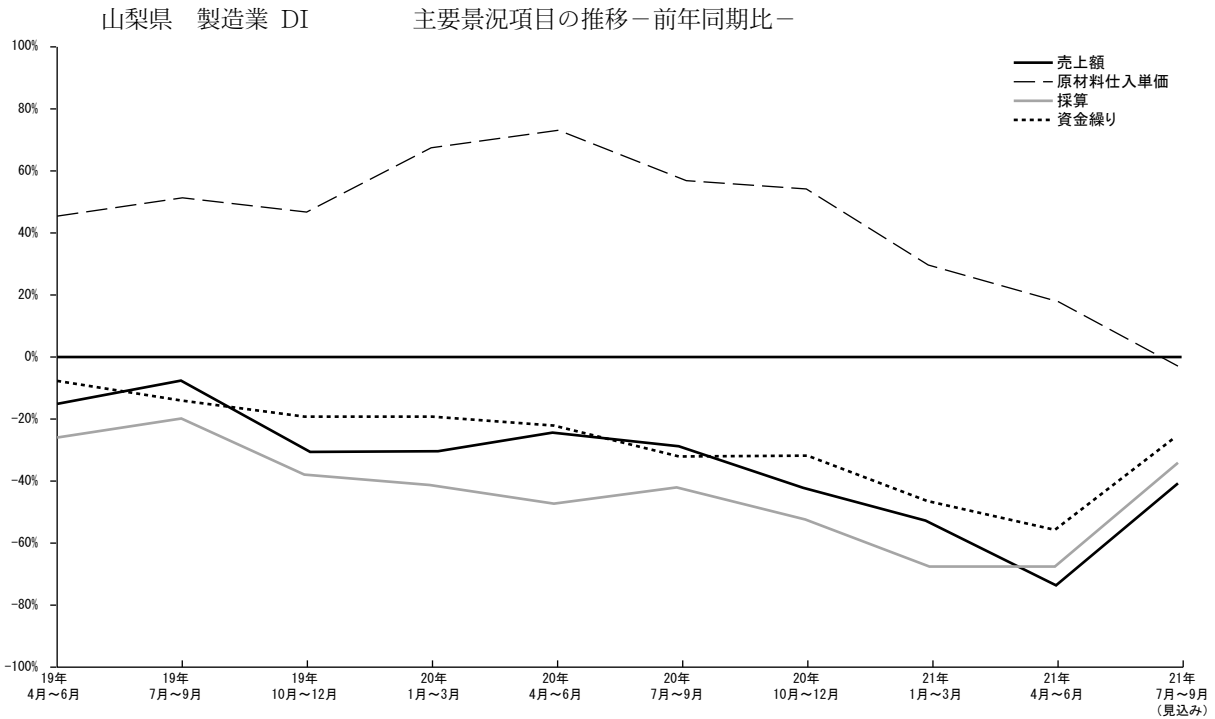


2. 製造業の動向

1. 景況概観

下図は、製造業の過去2年間の「売上額」「原材料仕入単価」「採算」「資金繰り」の推移状況を表わしたものである。売上額については、すでに述べたとおりである。原材料仕入単価D Iは、前期29.5から11.8ポイント低下の17.7となり落ちつきを見せている。来期の見通しは、「低下」と答えた企業が「上昇」と回答した企業を1社上回りマイナス2.9とマイナスD Iを示した。採算D Iについては、前期からの横ばいでマイナス68.4であった。

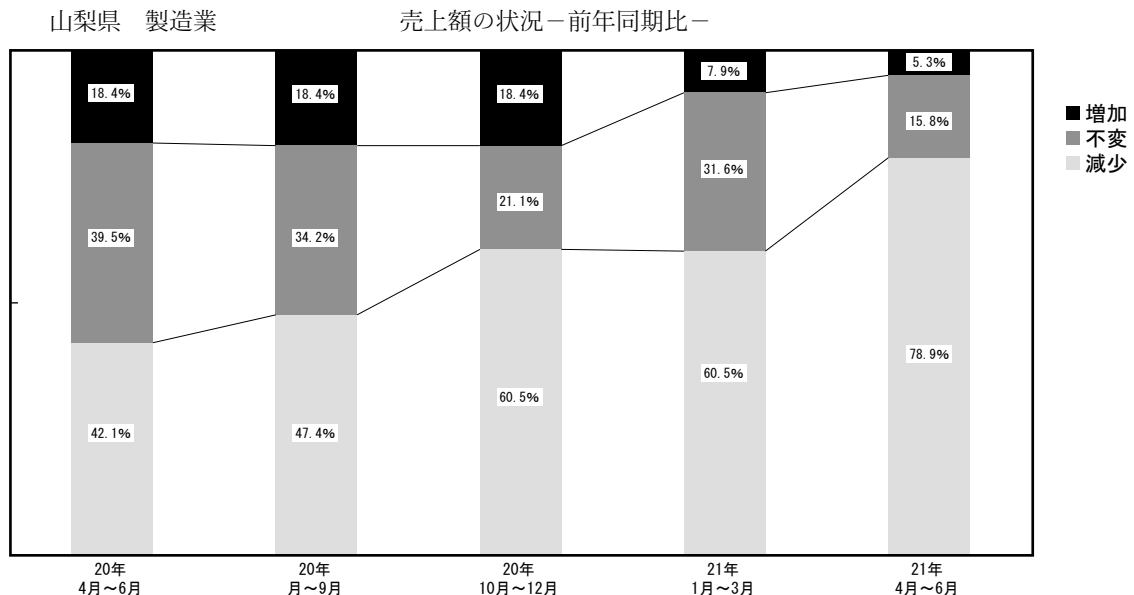
来期の見通しは、マイナス33.3と約50%の改善である。資金繰りD Iは、前期マイナス47.4からやや悪化のマイナス55.3であった。来期の見通しは、マイナス24.3に改善される。



2. 主な項目で見る業況

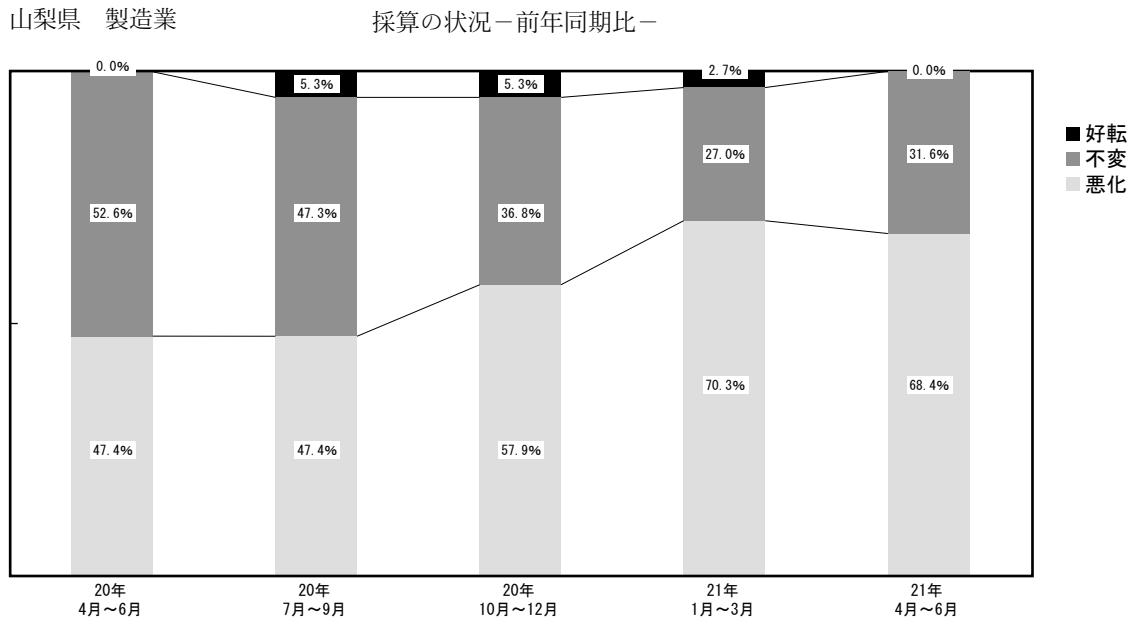
(1) 売上額

下図は、過去1年間の「売上額」の前年同期比で見た増減状況の推移を示したものである。ここでは、前記した当期の売上額D I マイナス73.6となった回答の中身を見てみよう。「増加」と答えた企業の割合は、前期7.9%から2社の5.3%へ、「不変」は31.6%から15.8%に、「減少」は60.5%から80%近くに伸びた。



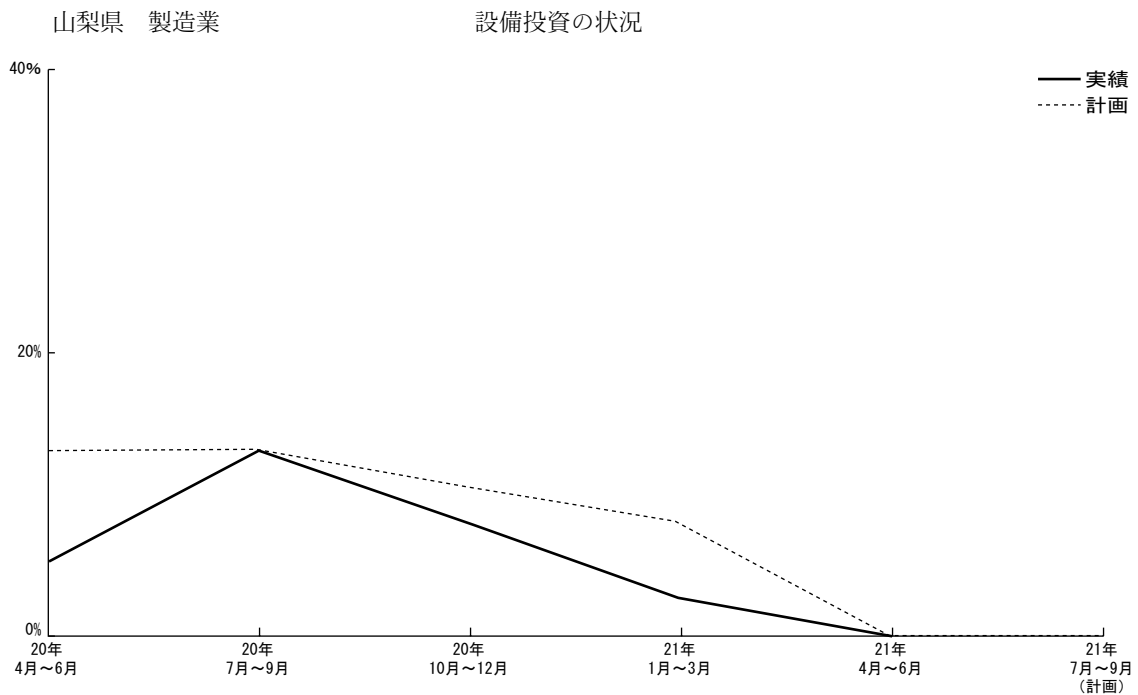
(2) 採算

今期の採算D I マイナス68.4についても、その詳細を見てみよう。「好転」と答えた企業は前期1社の2.7%であったが、ついにゼロとなった。「不変」は前期10社の27.0%から31.6%、「悪化」は前期26社の70.3%から回答企業数は変わらずの68.4%であった。



(3) 設備投資

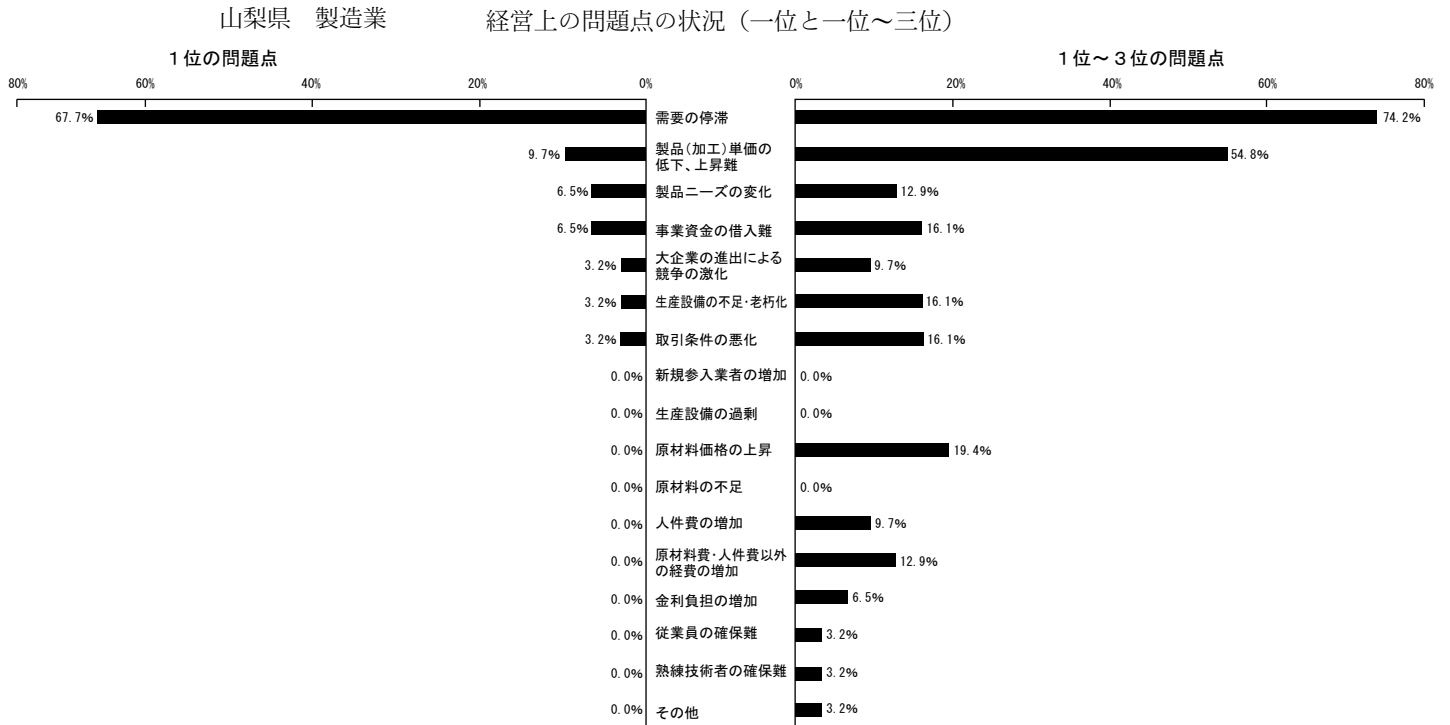
下図は、過去1年間の「設備投資」の状況を示したものである。設備投資した企業の割合は、前期1社だけの2.6%であったが今期はゼロであった。来期についても、計画を予定しているところはゼロである。操業の低下が続く中で、雇用とともに設備の過剰感に覆われている姿が窺われる。



(4) 経営上の問題点

製造業における「経営上の問題点」は、下図のとおりである。まず最優先事項の問題点である「一位」に挙げたものから見ていくと、「需要の停滞」が前期48.6%であったが、今期は67.7と3社に2社が答えた。他の回答では「製品(加工)単価の低下、上昇難」が9.7%で2番目に多かった。その他の答えは、2社以下に止まるものばかりであった。

次に「一～三位」を見ると、やはり「需要の停滞」で23社が答え74.2%に達する。続いて、「一位」に挙げた項目と同様に「製品(加工)単価の低下、上昇難」が17社の54.8%である。3番目は、6社が挙げた「原材料価格の上昇」の19.4%で、これ以降の回答は16.1%以下であった。



(5) 回答企業の内訳

業種別

業種	企業数	構成比(%)
食料品製造業	8	21.1
衣服・その他繊維製品製造業	1	2.6
印刷・同関連業	3	7.9
化学工業	1	2.6
プラスチック製品製造業	5	13.2
窯業・土石製品製造業	2	5.3
一般機械器具製造業	6	15.8
電気機械器具製造業	2	5.3
輸送用機械器具製造業	3	7.9
その他製造業	7	18.4
合計	38	100.0

従業員規模別

従業員数	雇用形態		臨時等含む	
	常	雇	企	構
	業	比	業	成
	数	(%)	数	(%)
2人以下	21	55.3	14	36.9
3人～5人以下	8	21.1	11	28.9
6人～10人以下	4	10.5	7	18.4
11人～20人以下	2	5.3	1	2.6
21人～50人以下	3	7.9	5	13.2
合計	38	100.0	38	100.0

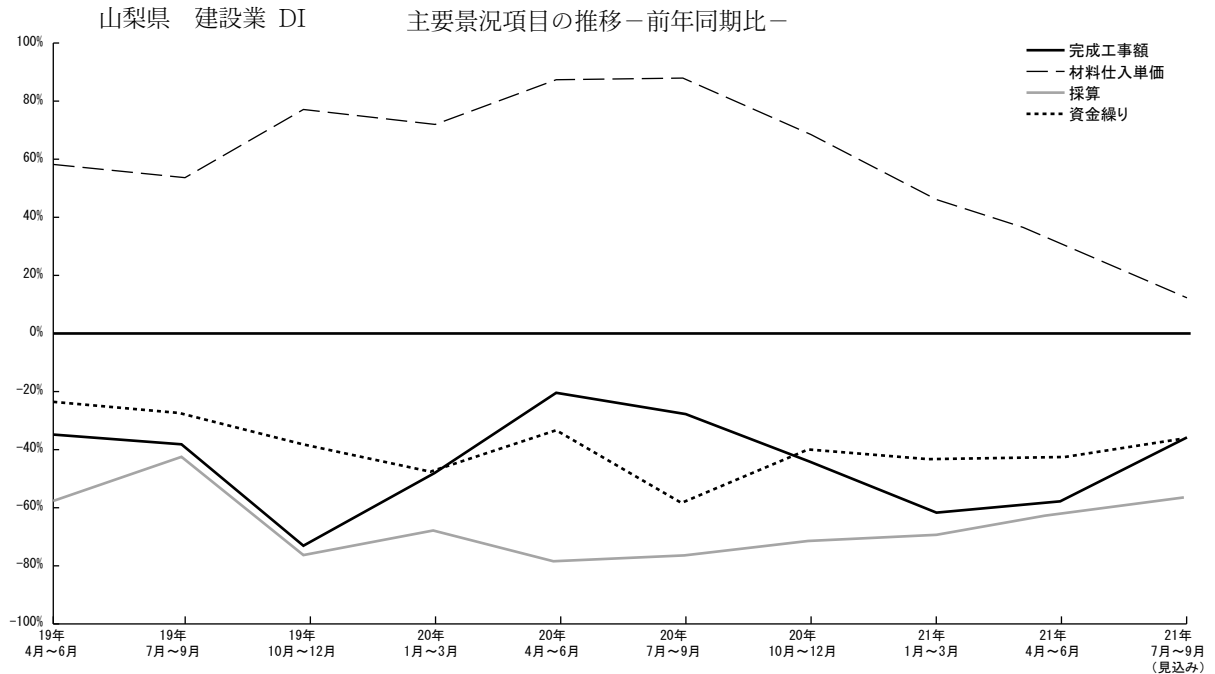
3. 建設業の動向

1. 景況概観

「完成工事額」については、産業全体の景況概観で述べたので「材料仕入単価」「採算」「資金繰り」を見ていきたい。材料仕入単価DIは、前期46.2から30.8へと15.4ポイント低下し、3期続けての改善となった。来期の見通しは、さらに下がるとの予測の12.0である。

原材料高の収益圧迫要因は取り除かれつつあるが、採算DIはどうかであろうか。前期DIはマイナス69.2であったが、いくらかの改善のマイナス61.6に止まる。来期の見通しについては、さらに持ち直し気味のマイナス56.0である。

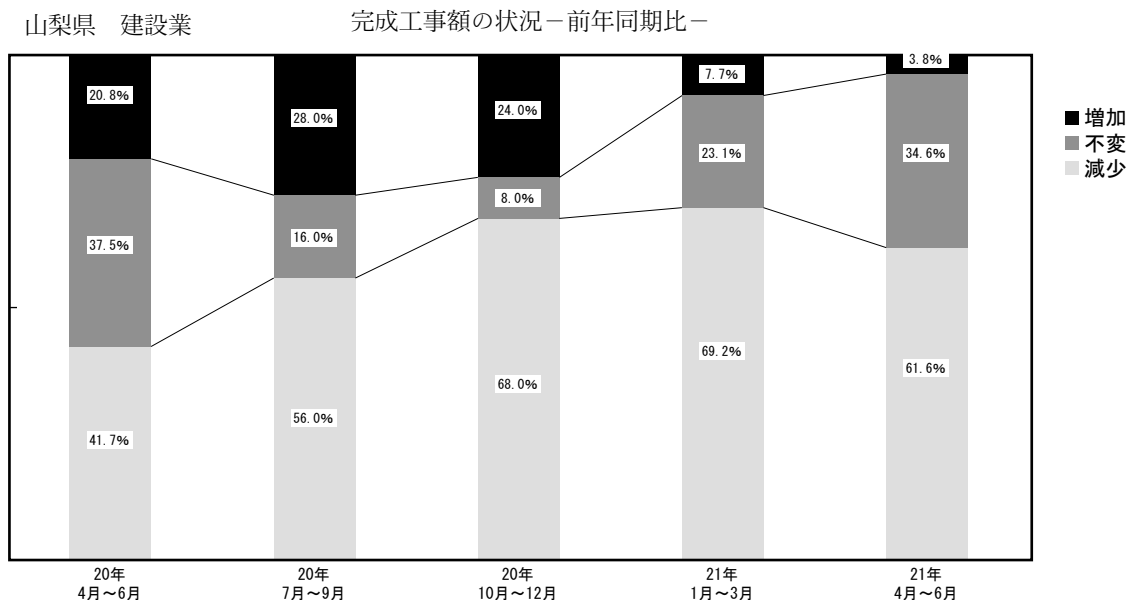
資金繰りDIは、3期続けてのマイナス42.4と変わらなかった。来期の見通しは、6.4ポイント改善しマイナス36.0である。



2. 主な項目で見る業況

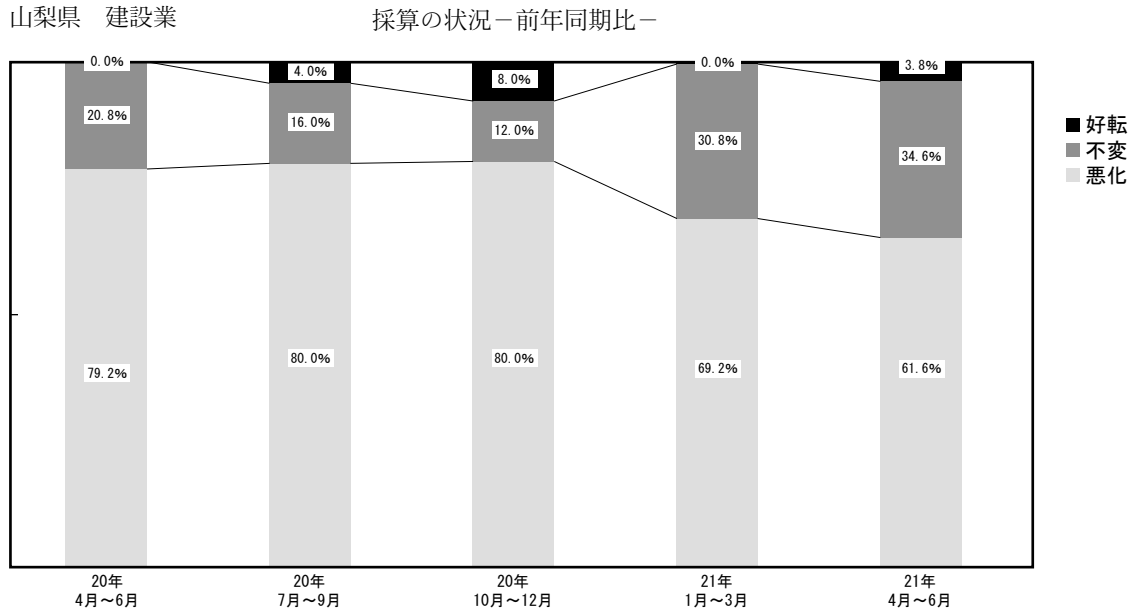
(1) 完成工事額

過去1年の「完成工事額」の状況の推移を表わしたものが下図である。今期完成工事額DIマイナス57.8の内訳をみると、「増加」が前期2社の7.7%から1社のみ3.8%に、「不変」は前期23.1%から9社の34.6%に増え、「減少」は前期69.2%から16社の61.6%へいくらか下がった。ちなみに、今期の受注(新規契約工事)額は、前期マイナス65.5からマイナス61.6と、こちらも改善傾向でわずかながら明るさが見られる。



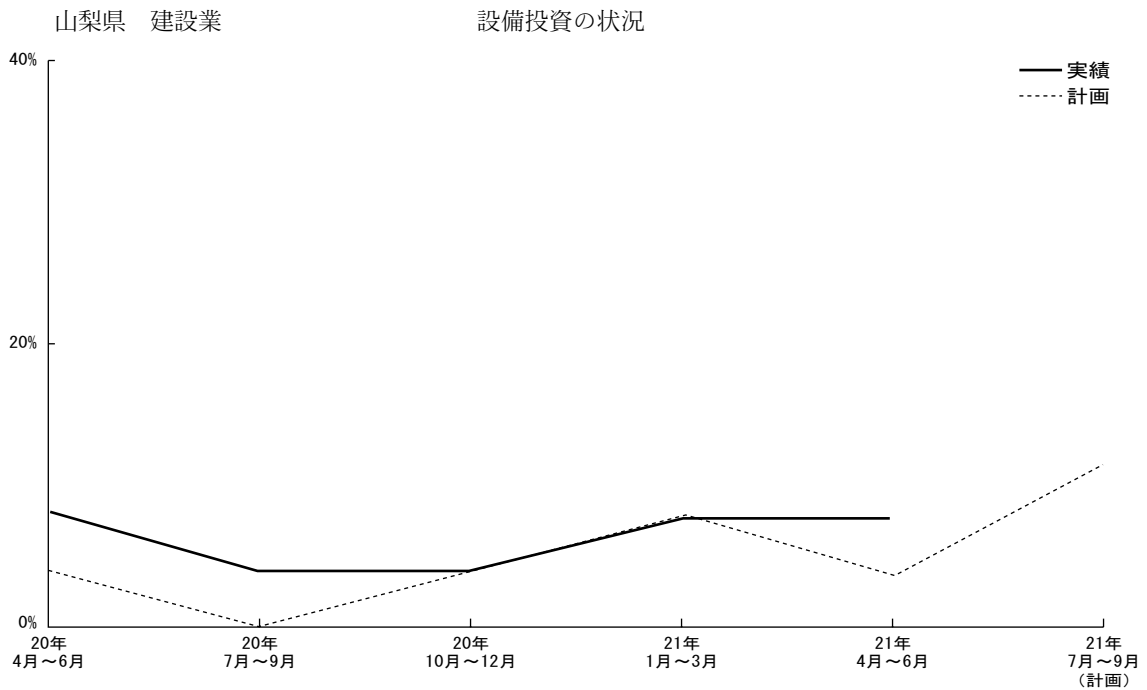
(2) 採算

「採算」状況の詳細を見ると下図のようになる。今期採算D I マイナス61.6の内訳は、「好転」が前期ゼロから1社の3.8%に、「不変」が前期8社の30.8%と変わらず、「悪化」は前期18社の69.2%から1社減り65.4%となった。来期の見通しについてのD I は「好転」が再びゼロ、「不変」が11社の44.0%、「悪化」が14社の56.0%である。



(3) 設備投資

設備投資を実施した企業は、前期の2社と変わらない。その内訳は、「建設機械」「車両・運搬具」「OA機器」「その他」が各1件であった。来期の計画については3社に増える見通しで、「車両・運搬具」「OA機器」が1件ずつ、「その他」が2件である。

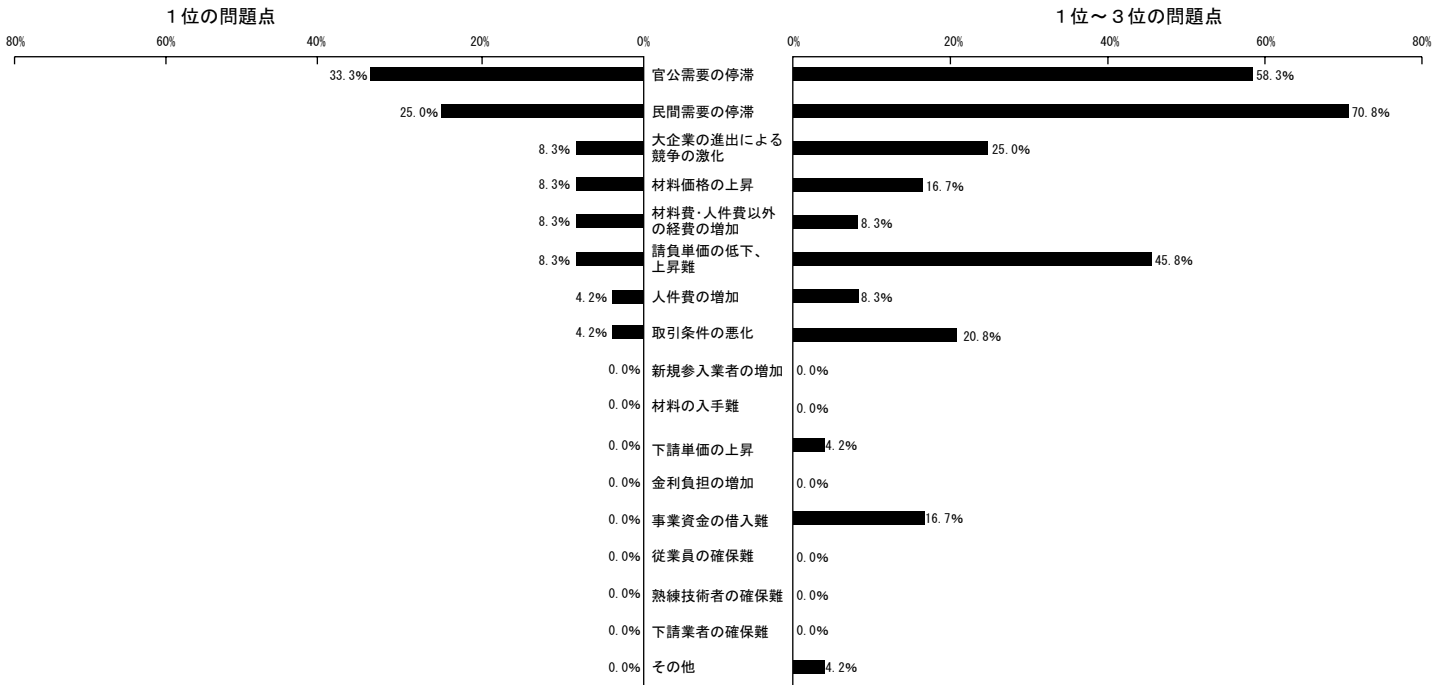


(4) 経営上の問題点

まず、「一位」に挙げたものから見ていくと、「官公需要の停滞」を3社に1社が挙げておりトップである。続いて、「民間需要の停滞」が前期44.0%から25.0%に減少したが2番目に多い。その他の回答は、1割未満のものだった。

次に「一位～三位」を見ると、「一位」に挙げた一番目と二番目が入れ替わり、「民間需要の停滞」が17社の70.8%、「官公需要の停滞」が14社の58.3%であった。続いて「請負単価の低下、上昇難」が11社の45.8%、「大企業の進出による競争の激化」が6社の25.0%、「取引条件の悪化」が5社の20.8%と目につく。注目されることは、「大企業の進出による競争の激化」が久しぶりに2割を超えたことである。発注物件をめぐっての競争環境の激しさが垣間見られる。

山梨県 建設業 経営上の問題点の状況（一位と一位～三位）



(5) 回答企業の内訳

業種別

業種	企業数	構成比(%)
総合工事業	18	69.2
職別工事業	5	19.3
設備工事業	3	11.5
合計	26	100.0

従業員規模別

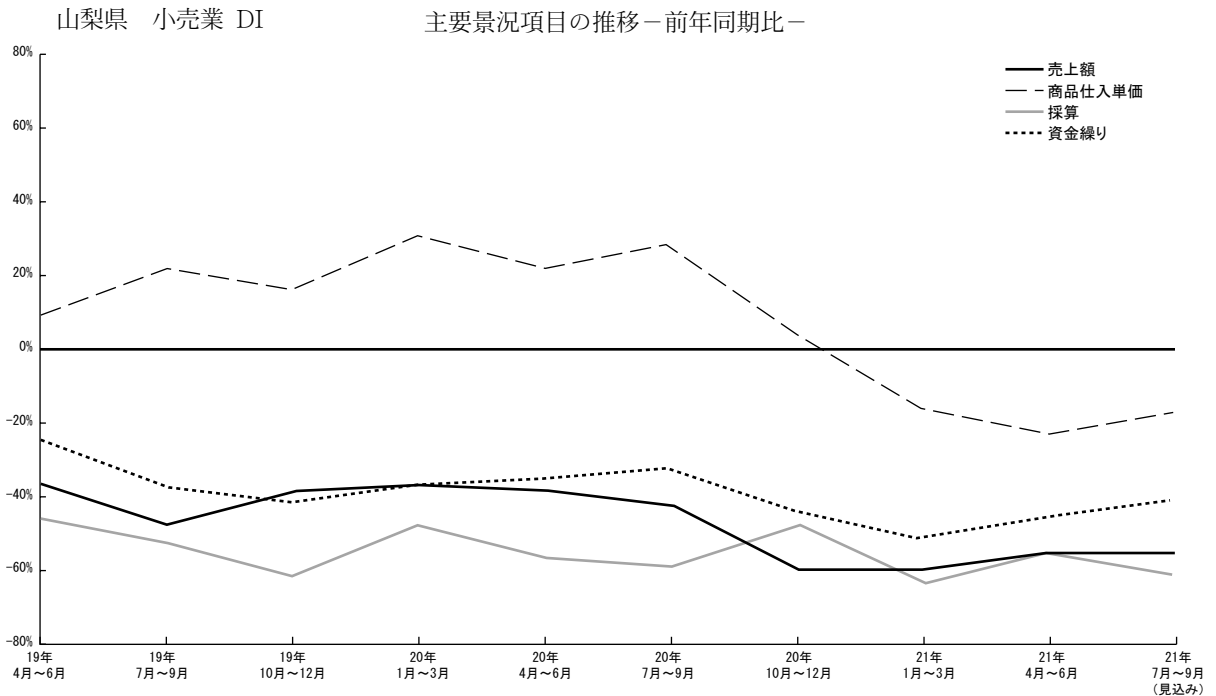
従業員数	雇用形態		臨時等含む	
	常	雇	企業数	構成比(%)
2人以下	9	34.6	7	26.9
3人～5人以下	7	26.9	17	26.9
6人～10人以下	2	7.7	4	15.4
11人～20人以下	6	23.1	6	23.1
21人～50人以下	2	7.7	2	7.7
合計	26	100.0	26	100.0

4. 小売業の動向

1. 景況概観

「売上額」については、これまでに見てきたとおりであるので、「商品仕入単価」「採算」「資金繰り」についての解説をしたい。商品仕入単価D Iは、前期にマイナスに転化し16.7となり、今期はさらに低下してマイナス22.6となった。来期の見通しは、前期に近いマイナス17.0である。小売価格の低価格競争が進展している状況の中で、仕入単価が抑制されていることが分かる。

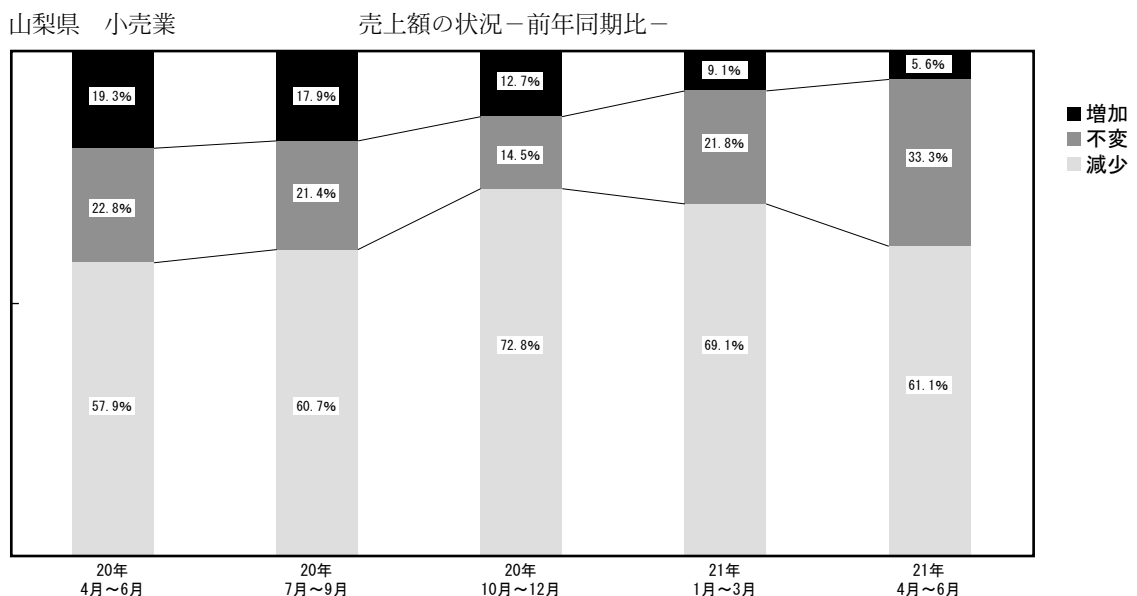
次に採算D Iであるが、前期にマイナス63.6であったが8.1ポイント改善しマイナス55.5であった。来期の見通しは今期と全く変わらない。資金繰りD Iは、前期マイナス51.8からいくらか改善しマイナス45.3である。来期の見通しについては、さらに改善されマイナス41.5となる。



2. 主な項目で見る業況

(1) 売上額

下図は、ここ1年間の「売上額」状況の推移を示したものであるが、今期の売上額D I マイナス55.5の中身を分析してみると次のとおりである。「増加」と答えた企業は、前期5社の9.1%から3社へと減り5.6%となった。「不変」企業は、前期12社の21.8%から18社の33.3%へ増え、「減少」企業は前期38社69.1%から33社に減り61.1%であった。

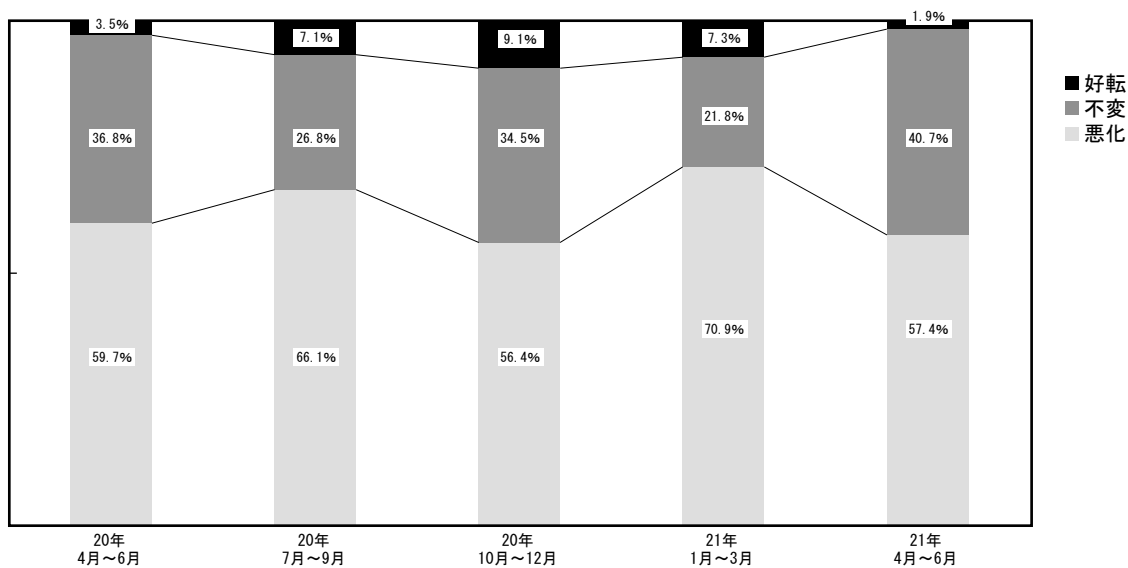


(2) 採算

下図は、この1年間の「採算」状況の推移を示したものである。今期の採算DIマイナス55.5の内訳をみると、「好転」は前期4社7.3%から1社のみ1.9%である。「不変」は前期12社の21.8%から22社の40.7%に増加、「悪化」は39社の70.9%から31社の57.4%に減った。

山梨県 小売業

採算の状況－前年同期比－

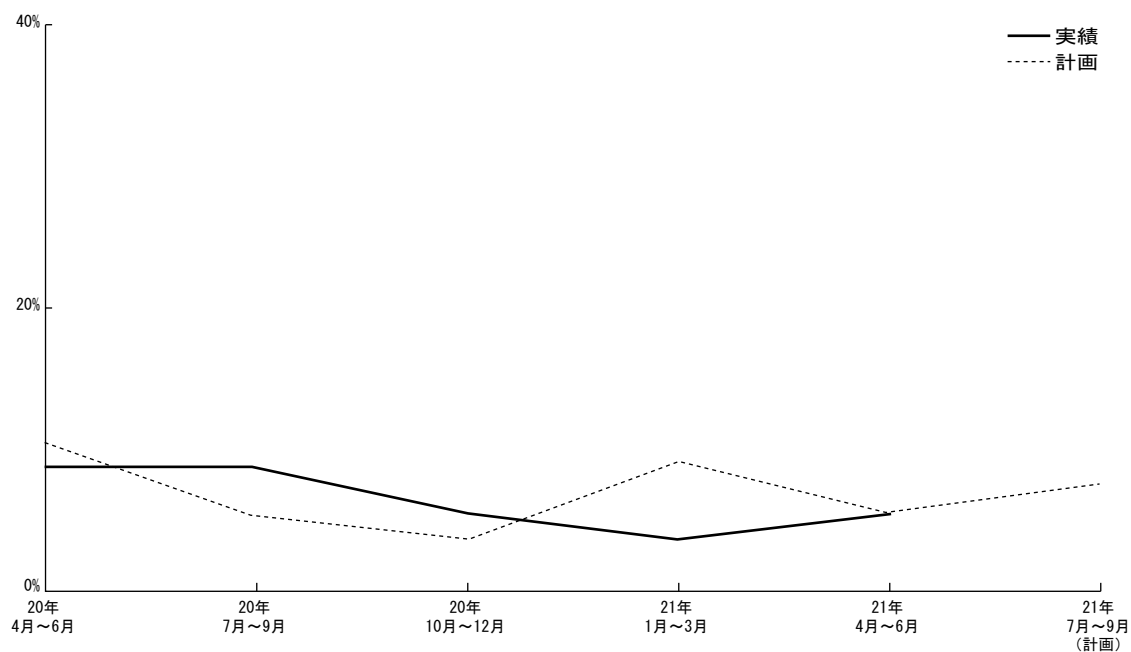


(3) 設備投資

小売業の今期における「設備投資」状況を見ると、実施企業数は前期2社から3社に増えた。その内容は「OA機器」が1件、「その他」2件である。来期に設備投資を計画している企業は4社に増え、「販売設備」3件「その他」2件である。

山梨県 小売業 DI

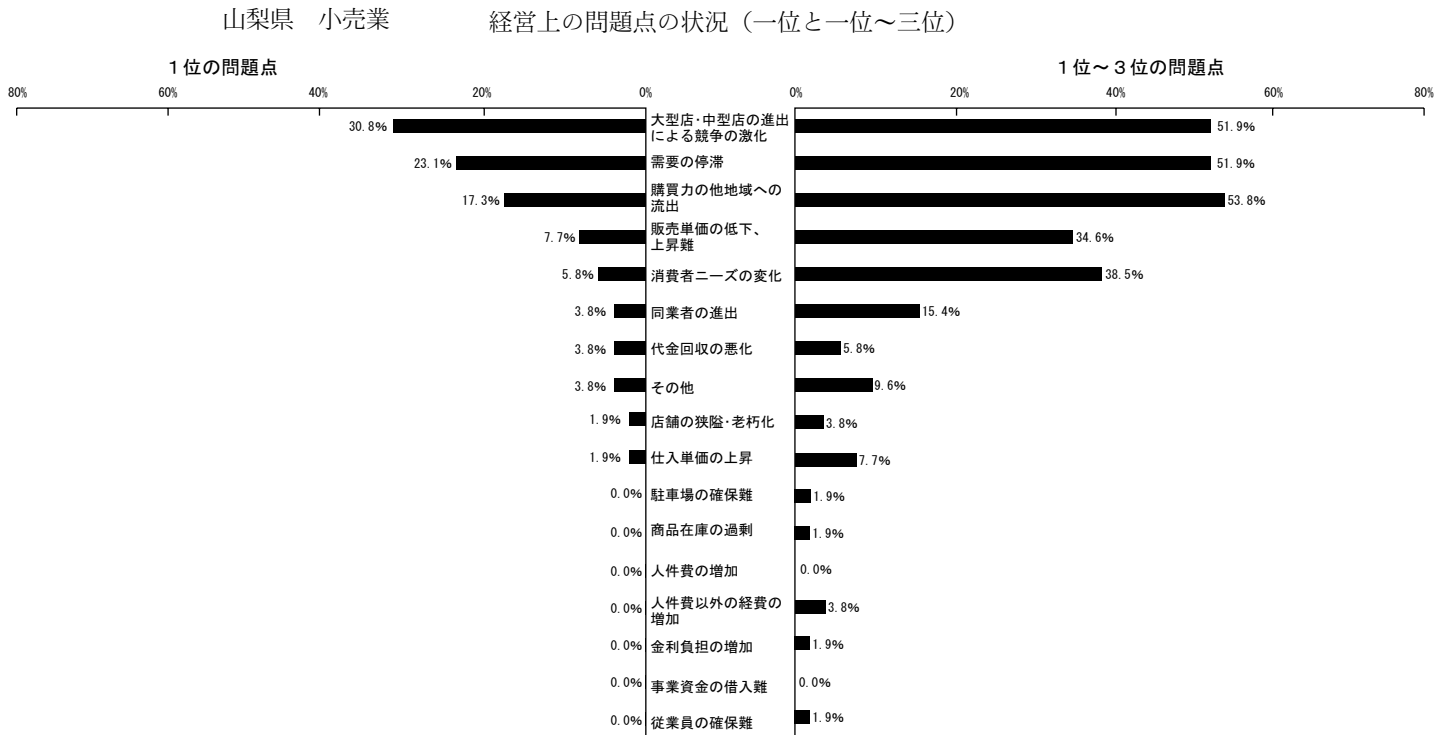
設備投資の状況



(4) 経営上の問題点

「一位」に挙げたものから見ていくと、前期に引き続いて「大型店・中型店の進出による競争の激化」を16社が挙げ30.8%で相変わらずトップである。続いて「需要の停滞」が12社の23.1%、3番目には「購買力の他地域への流出」が9社の17.3%であった。これら以外の回答は、10%未満のものであった。

次に「一～三位」に挙げた答えをみると、「購買力の他地域への流出」53.8%、「大型店・中型店の進出による競争の激化」と「需要の停滞」が51.9%で、これら3つの回答が5割を超えている。引き続き「消費者ニーズの変化」が20社の38.5%、「販売単価の低下、上昇難」が18社の34.6%である。小売業の経営上の問題点は、これら5つの回答に集中しているのが分かる。



(5) 回答企業の内訳

業種別

業種	企業数	構成比(%)
織物・衣服・身の回り品小売業	11	20.4
飲食物品小売業	14	25.9
自動車・自転車小売業	4	7.4
家具・建具・じゅう器小売業	7	13.0
その他小売業	18	33.3
合計	54	100.0

売場面積別

売場面積	企業数	構成比(%)
50㎡未満	30	55.6
50㎡～100㎡未満	16	29.6
100㎡～200㎡未満	3	5.6
200㎡～500㎡未満	3	5.6
500㎡～1000㎡未満	2	3.7
合計	54	100.0

従業員規模別

従業員数	雇用形態		従業員数	
	常雇い	臨時等含む	企業数	構成比(%)
2人以下	45	83.3	41	75.9
3人～5人以下	9	16.7	10	18.5
6人～10人以下	0	0.0	3	5.6
合計	54	100.0	54	100.0

5. サービス業の動向

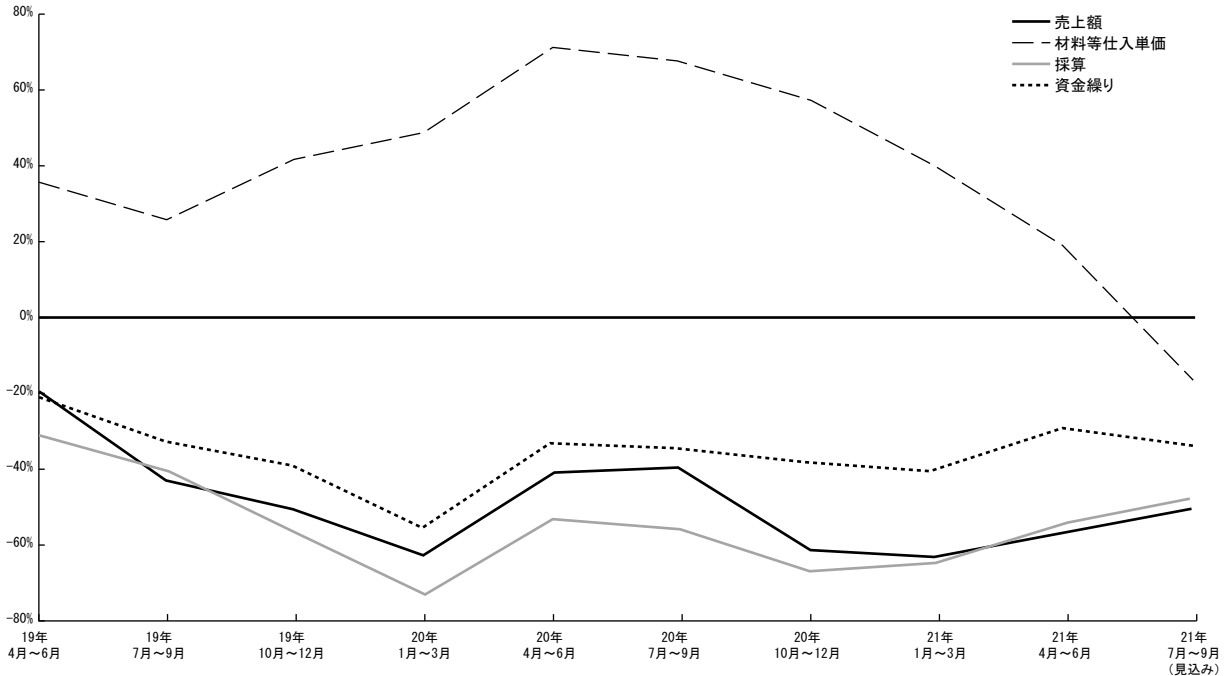
1. 景況概観

サービス業についても、売上額D Iは前記したので「材料等仕入単価」「採算」「資金繰り」についてふれてみたい。材料等仕入単価D Iは、前期40.6から大きく低下し18.2になった。来期の見通しについても、さらに15.9と低下する。

次に採算D Iについては、前期マイナス64.5から10.2ポイントの改善でマイナス54.3である。来期の見通しについても、6.5ポイントの改善予測でマイナス47.8である。資金繰りD Iは、前期マイナス39.5から約10ポイントの改善でマイナス28.9である。来期の見通しについては、いくらか悪くマイナス33.3である。サービス業の4つのD Iは、すべて好転という結果である。

山梨県 サービス業 DI

主要景況項目の推移－前年同期比－



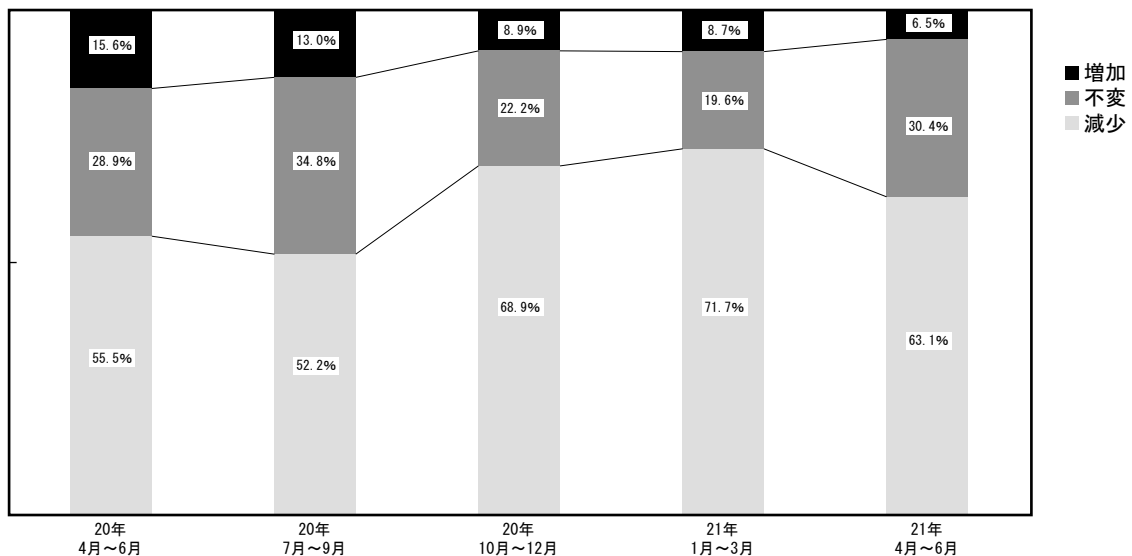
2. 主な項目で見る業況

(1) 売上額

この1年間の「売上額」の推移状況から、当期売上額D I マイナス56.6の分析をすると「増加」が前期4社の8.7%から1社減り6.5%、「不変」は前期9社の19.6%から14社の30.4%に増え、「減少」は前期33社の71.7%から29社の63.1%に減った。

山梨県 サービス業

売上額の状況－前年同期比－

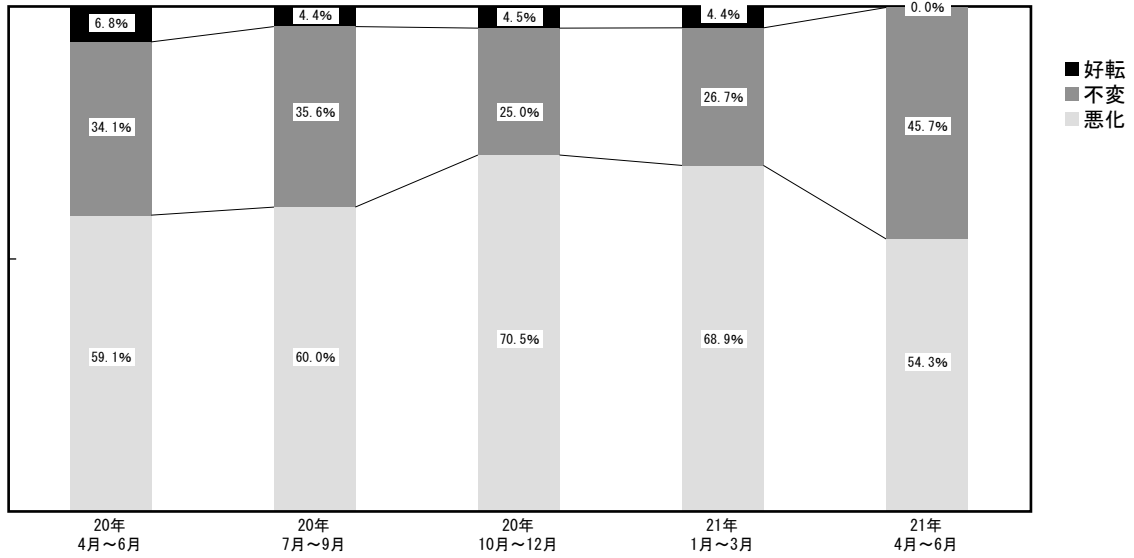


(2) 採算

今期採算D I マイナス54.3の内訳は、「好転」が1社もなく、「不変」は前期12社の26.7%から21社に増え45.7%、「減少」は前期31社の68.9%から25社に減り54.3%となった。

山梨県 サービス業

採算の状況－前年同期比－

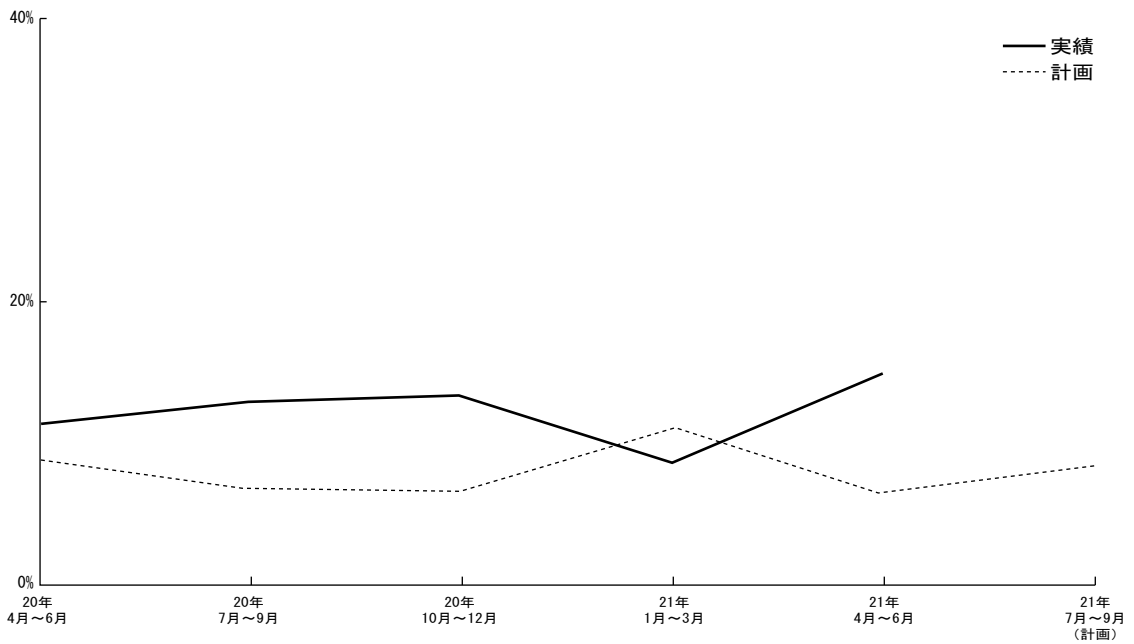


(3) 設備投資

サービス業で「設備投資」を行った企業は、前期4社から7社に増加した。その内容は「サービス設備」が3件、「建物」「車両・運搬具」「付帯施設」「O A機器」「その他」がそれぞれ1件であった。来期の計画については4企業が予定している。その内訳は「サービス設備」「その他」が各2件である。

山梨県 サービス業

設備投資の状況

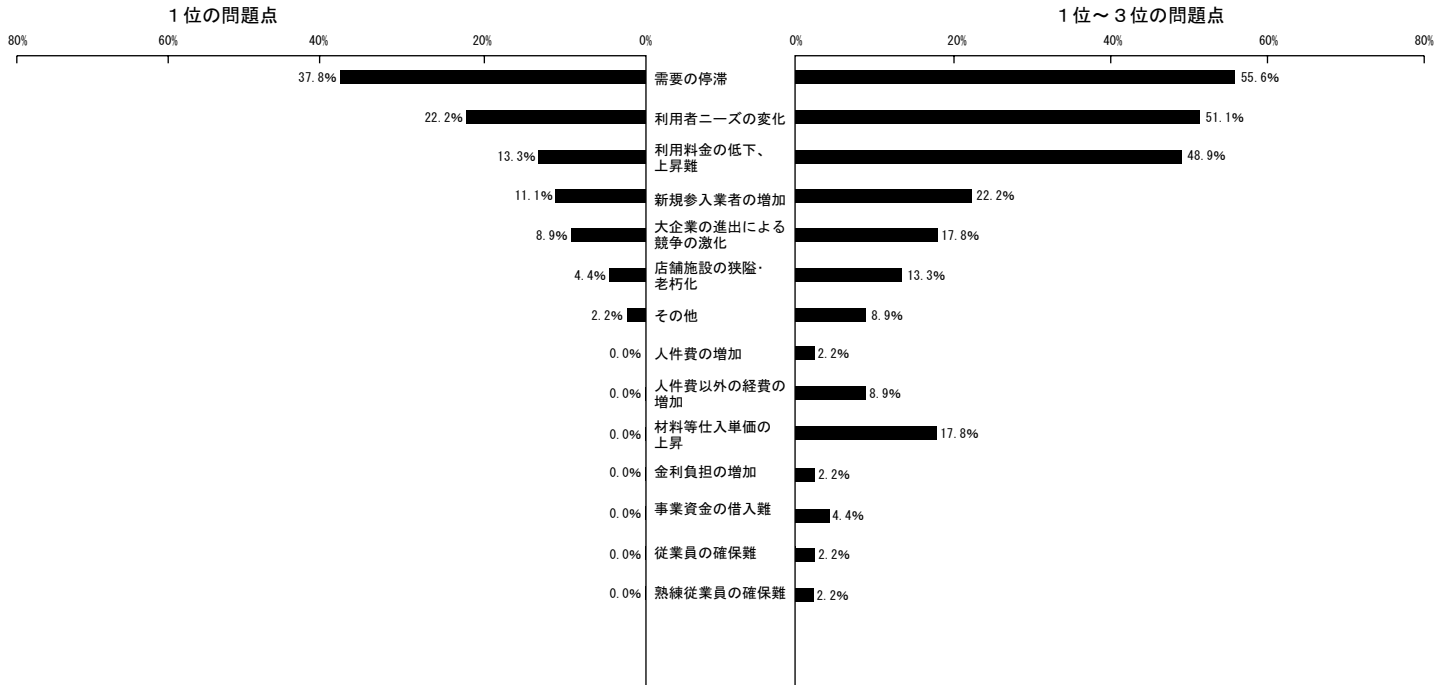


(4) 経営上の問題点

サービス業の「経営上の問題点」は、「一位」に挙げた項目の中では前期と同じく「需要の停滞」が最も多く、17社の37.8%であった。続いて「利用者ニーズの変化」が10社の22.2%、「利用料金の低下、上昇難」が6社の13.3%、「新規参入業者の増加」が5社11.1%と続く。

次に、「一～三位」に挙げたものを見ると、最も多かったのは、同じく「需要の停滞」で25社の55.6%、「利用者ニーズの変化」が23社の51.1%と半数を超した。続いて「利用料金の低下、上昇難」が22社の48.9%で、これら3つの答えに集中している。そして、「新規参入業者の増加」が10社22.2%と続いている。

山梨県 サービス業 経営上の問題点の状況（一位と一位～三位）



(5) 回答企業の内訳

業種別

業種	企業数	構成比(%)
一般飲食店	9	19.1
旅館、その他の宿泊所	7	14.9
自動車整備業	4	8.5
洗濯業、理美容業	21	44.7
その他のサービス業	6	12.8
合計	47	100.0

従業員規模別

従業員数	雇用形態		臨時等含む	
	常	雇	企	構
	業	成	業	成
	数	比(%)	数	比(%)
2人以下	35	74.5	32	68.0
3人～5人以下	8	17.0	7	14.9
6人～10人以下	4	8.5	6	12.8
11人～20人以下	0	0.0	0	0.0
21人以上	0	0.0	2	4.3
合計	47	100.0	47	100.0